

刊夕 日四月一十

常磐每日新聞

刊 日

定価 一月一元 三月二元 半年四元 一年七元	電話 六三〇
發行所 常磐毎日新聞社 〒六三〇 福島県南磐城郡平田町三丁目	印刷所 常磐毎日新聞印刷部

山崎翁を讃へて

功績實に顯著

帝國農會長
伯爵 酒井忠正

山崎與三郎君の碩徳碑成り茲に本日の佳辰を卜し除幕式を舉行せらるゝに當り聊か所懐を述べんとす。君は福島縣平町の素封家にして夙に農事各般の指導獎勵に献身し平町農會長の職に在ること實に三十餘年、其の間常に農會の職務に精勵せらるゝと共に地方公共の要職に就き配土の爲盡されたる功績實に顯著なるものあり本年四月老齡の故を以

徳澤郷土に輝く

本縣農會長 大島英二

茲に昭和十年明治節の佳辰を卜し山崎與三郎翁碩徳碑工成り盛典を舉行せらるゝに當り不肖參列の光榮を得たるは欣幸とする所なり翁の功績は勅旨に依り紺綬褒章を賜られたる一事にて多言を要せざる所殊に平

祝歌

みいさをの打ちせぬあとや仰がれて
高きほまれの照りそはゆるらん

— 眞 木 齋 吉 —

て其の職を退かるや君の功績を讃へんが爲有志相謀りて君が碩徳碑を建設するの企圖成り本日建設の工を竣へ除幕式を舉行せらるゝに當り慶祝に堪はず現下我國農村は未曾有の難局に際會す而して此の難局を打開せんには君の如き練達有爲の士の

愛と天壽の長久を念題し併て本日の際を祝福し以て祝辭とす

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇



片桐 傳

秋風は吹き初めにけり故郷の丘の稻穂なびきてあらむ

この花の如くあれよとコスモスをかざしてみせし見も知らぬ人

咲き終へて枯葉まじれる花園に今宵もなくか蟋蟀のこゑ

女郎花咲き亂れたりとかを山野分の跡のいちぢるしかも

文藝募集

— 電氣グレイン 演習手 壹名

— 木型職見習 數名

— 一身元照明 身体強健 十五・六才

給仕 一名

履歷書持参—委細面談

平電氣鑄鋼所

電話 二六番

耳鼻咽喉科専門

鈴木醫院

醫學士 鈴木 正男
平町田町 (電話五八番)
藤田女學校前

自炊のお需めに應ず入院の便あり

かまぼこ製造

おどろき

お惣菜用 さつま揚 吉原揚

平棧田一丁目

平棧田

電話 一四一番

花環	神佛葬具
盛花	新橋
久壽玉	川本
御弔燈	屋
寶明燈	靈柩自動車

電話 三六一

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町 南町一六 (電話一七〇番)

磐城セメント會社特約店

久谷屋商店

磐城平町五丁目 電話九番九九

□良品廉賣に勝る商略なし

□確實敏捷は〇〇の生命なり

外科科一般

金成醫院

平棧田町 (電話三五八)

内科 専門

胃腸病科
花柳病科
性病科
皮膚科

外科 専門

花柳病科
性病科
皮膚科

松村醫院

性胃病 腸胃病
(番七〇一町南町平)

文 德 頌

山崎翁通稱與三郎磐水と號す慶應元年十二月平町古銀治町に生る家世世醫鼓製造を業とす、性温厚にして敬神の心篤く謹嚴己を持し寛容人に接す、隣里郷黨の援助社會一般の賑恤救濟等苟も公利公益ある事業に對しては資材を捐て、惜む所なし、大正十四年十二月紺綬褒章を賜はり其善行を旌表せらる而して翁は素封家として財界に重きを爲し地方經濟機關の施設に努め或は實業界に立ちて指導獎勵の任に當り推されて大小の要職に就き殆ど寧處に違あらず、殊に意を興農に注ぎ其改良發達を圖り書策經營せし所頗る多し、曩に選はれて平町農會長となり勤績實に三十餘年致々として其適責を全うせり、今や老齡七十有一功成り名遂けて朝市に退隱し悠々自賀其好む所の書道に親む後嗣清三氏よく其志を繼ぎ家運益隆昌なり蓋し翁が積善の餘慶なりと云う可し、爰に同志胥謀り其嘉績を叙し貞珉にして之を後世に傳ふ(貴族院議員正四位子爵安藤信昭蒙額)昭和十年十一月三日平町長從五位勳五等青沼鋒太郎撰並書

磐城聖人 山崎翁

不滅の榮譽成る

菊香る縣社の神域に 昨日盛んな建碑除幕

病軀を押して翁の感激!

「磐城聖人」として萬人より思慕仰慕する、山崎與三郎翁の榮譽を永久に傳へんとする町農會發起の頌徳碑は昨日菊香る明治節の佳辰を卜して縣社子鏡會社頭に盛大な除幕式を舉行した。午前十時先づ碑前に修祓を行ひ、山崎翁の令孫八歳の慶一君と五歳の弘子さんが紅葉の手に力をこめて綱を引けば、白布がバラリと開いて折柄の秋陽に碑面は輝く、病軀を押して臨席した山崎翁も満足氣に莞爾として碑を仰ぎ齋主山部神官殿かに祝詞を奏上、山崎翁

始め清三氏夫人、忠兵衛氏夫妻夫々玉串を奏奠、關内町議農副會長左記の工事報告を朗讀

前平町農會長山崎與三郎氏頌徳碑建設の議成り七月一日之が建設に關し總代會を開き豫算額五百圓とし内金二百圓を本會より支出し餘額は發起者に於て負擔することに決し委員五名を擧げ之が建設に關する一切を委任す、而して七月二日建設委員會に於て當町字鎌田石工松崎長太郎と請負契約を爲し七月二十六日碑石到着と同時に之が彫刻に着手し鋭意勤働工事の進捗を計り十月二十二日地鎮祭を行ひ全月二十八日基

礎工事に着手し十一月二日建碑の竣功を見たり、本工事は土臺九尺に六尺の周圍幅一尺厚さ八寸の(コンクリート)下積石は全部西小川産御影石前通り才石三方はケンチ石にて全部コブ出し仕上げ上石は才石にて四枚合せ碑下積石は好間川産青玉石九尺五寸にして着工以來些に支障なく工事完成を告ぐるに至りたるは最も欣幸とする處にして工事關係者の勞に對し謝意を表するものなり以上工事の概況を報告す

次いで諸橋同會長の左記式辭の朗讀あつて

天明かに秋氣を渡る菊の花の佳節を卜し此の清淨

なる縣社子鏡會社境内に於て謹みて前の平町農會長山崎與三郎翁が頌徳の式典を擧行するに當り名士各位の御貴臨を辱ふしたるは生等の最も欣幸とする所なり翁や純情にして睿智風塵名利の外に超越し獻身の奉仕は郷黨里閭の爲に資を奉げ財を捐して惜まず其の慈顔温容は常に隣保相助の實を擧げて寧處するに違なし遂に此の事應酬に達し勅定紺綬褒章を下賜さるるの光榮に浴せり、就中與農殖産の事に聲鬼國本を率め地方の富を培養せらる其の勵精配慮する處郷土文化の根幹を沃し無量の利益を興へしは一切に止まらず衆望蒙る處表旌を享け幾多の要職に就けるは僕指に餘り有り翁は又寡言にして行に敏く實踐する處明訓多く夙に有英に志して後輩の指導誘掖盡し幾多の逸材を世に送りし徳多の以て世人の龜鑑たり殊に敬神崇祖の念篤く、藝に吾等、氏神當縣社の再建に關して殆んど全力を是に傾注せらる爲に今日此の莊嚴なる社殿の建立を觀たるは、翁が努力の賜なりと云ふべし嗟嗟父辭盡さず是れが全貌に非ずと雖も翁今や眉壽にして富貴後嗣清三氏亦克く翁が意を体して其の業蹟を繼ぎ家門滋々繁榮して磐石の重きをなす是れ天爵と謂はざるや世は今や文華日に進み德行反つて日に衰ふるの秋確乎たる信念と牢固拔くべからざる意志を以て獻身善行停々とし倦まざる翁の人格は輕浮なる一世を覺醒し敬慕の念彌やが上に深からしむ正に磐城聖人稱ある所なりこの名譽ある仁として頌讚するは社會の祥事として最も意義ある企及なりと信じて町農會員愛に胥謀り頌徳の文を撰び豐碑を刻み以て翁が功績を不朽に傳へんとす若し夫れ碑銘に壞滅あるもこの榮譽は悠久なるべく而して翁の天壽愈々饒にして一家御一門の益々隆昌ならんことを希ふや切なり聊か撫辭を述べて式辭となす

來賓の祝辭に移り(本紙一面順次掲出)

帝國農會會長伯爵酒井忠正(覽元縣議氏讀)本縣農會會長大島英二(野崎縣議氏讀)平町長青沼鋒太郎(町農會議長井上茂作)限りなき喜びに病苦を忘れ山崎翁が元氣な足どり忠兵衛氏を伴ひ、感激に堪えぬものゝ如く低聲ながら一場の挨拶を述べて左の謝辭を代讀せしめ

只今、司會者、並に來賓各位より、頂きましたる鄭重なる御贊辭や、此碑面に記されたる如き、社會の儀表たるべき行爲は殆んど有りませんで誠に慙愧の至りで御座います。然るに、此壯麗なる碑に過分の賞文讀句を列ねて老生の不朽に御顯彰下されたることは、衷心恐懼感激に堪へざる次第であります。

殊に、老生が素、敬虔崇拝措かざる、縣社子鏡會社の靈域に、建碑されたことには、眞、身一家の榮譽、之れに過ぐる靈神に對し奉り、誠惶措く能はざる次第で御座います。

除生益々修養に努め、且

つ子々孫々に戒飭を加へ以て今日の榮譽を、永遠に毀損せざることを期したい所存であります。終りに平町農會の健全なる御發達と、各位の御健康とを祝福して、止まざるものであります。

茲に聊か燕言を述べ、深厚なる敬意と、滿腔の謝意とを、捧ぐる次第で御座います。

工事功勞者として碑文を刻した石工松崎長太郎氏に表彰の金一封を贈り吉田幹卓の閉式の辭に依つて目出度く式の終りを告げ社殿傍らの天幕張の中に祝宴を開き山崎翁を壽ぐ歡聲に満ちたる盛況を呈した

審判協會が

結成式舉行

氣を吐く 郡下兒童

簡保清書展に

磐城野球界は既報の如く愈々機運熟して磐城野球審判協會の誕生を見るに至り制服制を調製去る一日結成式を舉行したが事務所を平町仲町熊鎌次郎氏宅に置き阿部政右衛門氏を名譽會長に會員は左記諸氏である

熊鎌次郎 佐藤武人 鯨岡久一郎 石坂一雄 加美山美雄 田邊寅雄 金子順二 石田勝利 水竹伊之助 先崎拾 阿部藤雄 朝妻仲治 角田貞治 鯨岡發二朗 渡邊好

過般來仙臺遞信局保險課で簡易保險記念日施設の一端として管内東北六縣、新潟各地小學校兒童より募集した清書の入賞者は昨日發表中されたが本郡小學校児童品中女兒の成績素晴しく八十一萬六千六百人の老大な應募者のうちから最高位の特選その他に入選して氣を吐いた、因に校名並に兒童名左の通り

(特選)飯野校尋三女常陸和子(優等)勿來校尋一女金成チヨ子(準優等)平第二尋五女千葉恰子

古河の園遊會

好問村古河炭礦は昨日午前八時から同村忽滑グラウンドに於て従業員慰安園遊會を開催盛會を極めた

競ふ香りの

菊花展入賞決定

既報平町菊花展覧會は去る一日より平署會議室に開かれ出品二百餘点に達し美觀を呈したが昨日三日植田町武内貞八、小川村齊藤滿藏の兩氏が審査を行つた結果入賞者左の如く決定明日五日後授與式が行はれる

△競技花之部(一等)長橋竹原次英(二等)好間蒲生寅松(三等)鍛冶町渡邊喜重△一般之部(優等一席)大觀、二丁目鈴木常雄(同二席)黄金の里、才穂小路藤田軍四郎(同三席)岸柳、城山明智忠吉(一)

煙幕を張つて

模擬火災の實演

病院は避難演習

明日の平消防組

既報明日の第六回防火デー當日の平消防組は午前七時第三小學校庭に集合、教練及び檢閲を受けて午後一時から火防組員と共に各戸の火防檢査に出動、午後三時からは平劇場跡、役場附近、元平署跡の三ヶ所煙幕自動車脚筒を使用する模擬火災と火防組員の非常線の張り方演習等があり更に木村共濟兩病院、片倉工場等で避難演習を行ふと

小名保健診療

濱三業保健組合は今回工費

婦人等の

集ひ盛況

平町婦人會並に女子青年團の秋季總會は昨日午前八時分より平第二小學校で開催、會長青沼セイ子女士の開辭に始まり次第を進行畫食後小田八重子女士の「婦人の特權について」と題して二時間半に亘る講演あり萬歳三唱後、午後三時副會長正木苞子女士の閉會の辭を以つて終了したが會員約五百名盛會であつた

赤十字の旗を

門戸に掲げて

趣旨の徹底を圖る

平町の赤十字デー

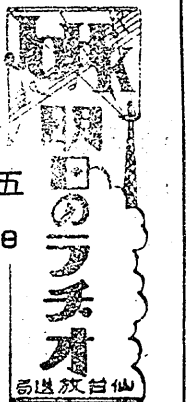
平町にては来る十五日から三日間全国的に實施される「赤十字デー」に呼應して會員の門戸に赤十字旗を掲揚、講演會、ポスター記念スタンプ等に趣旨の徹底を圖り同時に社員を募集して赤十字の擴大強化に務る由

轢き逃げ自動車

村民に取押へられる

被害者は生命危篤

二日午後十一時頃湯本町入山炭礦坑夫鈴木輝重(三)は同町笠井堤防を通行中後から来たトラックに轢き倒され入山病院に入院したが生命危篤、尙轢いた自動車は結果判明した



今夜も北西の風
明日は北東の風
晴曇半す

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
ハローモカ合奏「軍隊行進曲外四曲」仙臺高工音楽部
後六、二五 基礎英語講座(二十五)岡倉由三郎
後七、三〇 講演 經濟學博士林榮未夫
後八、〇〇 新日本音楽「流れの花びら」外三曲
福島美佐保存會 上野勝

明日の部

後八、二〇 浪花節「倉橋傳助」蛟龍齋青雲
後八、五〇 歌謡物語「薄暮の歌」長岡輝子 松島詩子
後九、三〇 時報「ニコニコ」氣象通報 番組豫告
前七、〇一 基礎獨語講座(二十一)武内大造
前七、三〇 朝の修養「華氏及び小川村二等軍醫羽岡平三郎の兩氏は昨日三日帝國在郷軍人本部の創立二十五周年記念の式典に於いて分會廿五年の永年勤続功勞に依つて閑院總裁宮殿下の御紋章入り木盃一組及び陸海兩大臣署名入り銅製花瓶と表彰状を授與された向廿年勤続者平町豫備歩兵中尉花澤文庫氏も同様記念品を贈られた

軍人分會

勤続功勞

昨日表彰さる

平町豫備砲兵少尉山崎清三

沸き立つ汁鍋に

赤兒を取り落す

好間村大字北好間炭原炭礦長屋安齋庄七(二)は二日朝九時半頃朝の高弘(一)を抱き爐端で子守中誤つて高弘を汁鍋へ落し瀕死の大火傷を負した

船の中に

一人足りぬ

漁夫行衛不明

小名濱町宇中島漁業家丹芳

平裁判たより

△石城郡草野村大字下神谷字内宿農齋藤忠一(一)は養

村民の三分の一が

虎眼患者の豊間村

既報トラホーム治療指定村に指定された豊間村は各部百名に達してゐることが判明したこの中二名は失明に近すと

最新編物大講習會

主婦の友 婦人俱樂部 婦人公論 婦女界 推奨 S式高速度編物機の

會期 十一月二十三日より四日間
會場 平町田町 ハシモトヤ糸店
時間 毎日午前九時より午後四時迄
會費 會期中金一圓也
講師 東京大日本編物研究會 特派 西田豊野先生
特典 會期中專賣特許S式編物機を無料で御貸し申上げます
主催 東京大日本編物研究會
後援 主婦の友 婦人俱樂部 婦女界 平町田町
後地 援元 ハシモトヤ糸店
電 十四番



明治太平記

(上段及上段)

(作) 寺島雄史

第二百六十六回

新島原跡 (六)

「ウエルズは、どこに居る」と、大志賀は、天竺に訊ねた。

「冥土で待つてをれ、知らしてやらう……さア、大志賀、戸外へ出ろ。」

「ずい分氣乗りのせぬ果し合ひだが、とにかく妓樓を出ねば、おさまりがつかなかつた。」

討つ方にも、討たるものにも、いさゝかの憎しみも、恨みもない。白湯のむやうな、變な氣持で、本部屋を出し、表階段を肩をならべておろしていつた。

店先まで来て、戸外の様子をうかがふと、どうやらもう、巡察の一隊は引上げたあとのやうだつた。不夜の巷のおもかげは露いさゝかもなく、あたりは、しいんとして静まり返つてをる。

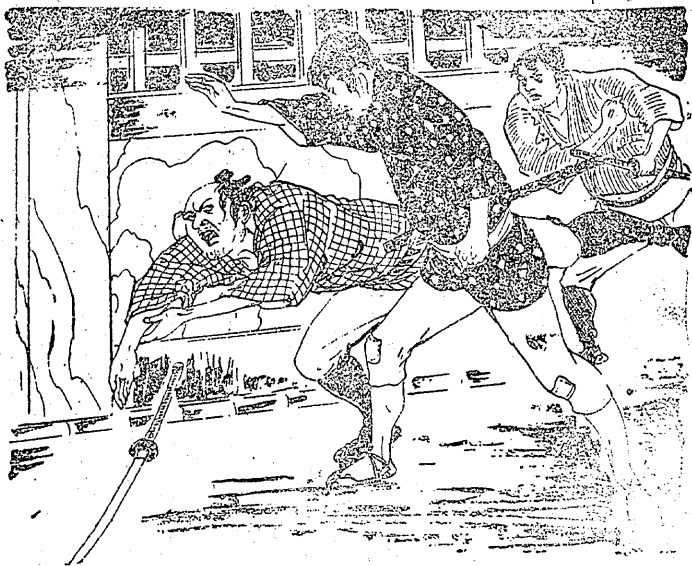
「天ぢく、好都合だ。人ツ子一人通らぬぞ。」

先に立つた大志賀は、振かへつて天ぢくにそれを告げた。

「いよ、おぬし。」

「ちを取られるのか、氣の毒だなア。」

「ぬかしたな、おのれこそ五人男の勢揃ひも遂にむなしく、おれノ手にかへつて相果つるのか。元祖の白浪五人男が笑つてをもぞ。」



「やい、大志賀、もう歩くことはいらぬ。こゝで果し合ひだ。覺悟をしろ。」

「天ぢくの聲は、鋭かつた。うむ、覺悟は、とうにできてをるぞ。」

「丸腰ぢや困るだろ。おい甲州屋、てめえのものを借してやれ。」

「いや、どうほうのものか。」

ぞ借りぬぞ。おのれごとき素手でたくさんだ。」

「おのれ、この天竺を見くびつたな。」

「同じことだ、ようし、その氣なら、かうだ。」

「天ぢくは、腰の物の鞘を拂つてえッ！とばかり斬込でつた。」

「どつこい。」

「大志賀は、ひらりと體をかはして。」

「まだ、未熟だぞ。」

「何をッ！」

「ふた、びかまを直して斬込んでくるやつを、空に泳がしてをいて、握り拳でした、かその手首を打つた。」

「あッ！」

「一刀は、もろくも天ぢくの手をはなれた。」

「おのれ！」

甲州屋は、見兼ねて、同じく腰の一刀の鞘を拂つた。

「待て、甲州屋、おれ一人で片付ける、その場に見てをれ。」

「だが、親分、相手は少々手ごはい。」

「なアに、青二才だ。」

「天竺は、路上の一を拾はうとして前かゞみになるとその弱腰を、大志賀は隙さず蹴つた。」

「天ぢくは、よろ／＼とよろめいた。」

「おのれ！」

「刀を拾つて立向つたが、」

何とおもつたか、ガラリとまた、それを投げだして「大志賀の旦那」と、妙に親しげにいつた。

「何だ。」

「おまへさんは、大した腕だ。」

「おのれの腕が、まだ未熟なのだ。」

「いや、おれも、相當な腕だとおもつてゐたが、このとほり、むざ／＼とやられては、もう白浪五人男の頭目としての見識が丸潰れだ。」

「……」

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
平町田町、電話五一三番

開 院

五十嵐産科醫院

平町新川町一
醫學博士 五十嵐雄二
電話三七〇番
(入院應需)

吉田眼科病院

平紺屋町電話六八番
醫學士 菅田久雄

喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお奨め致します

平町田町六九

喜多流 仕舞白土會
電話一二七番

貴方の御家庭に

お手不足は御座いませぬか

本會を御利用下さる

直に家政婦を派出します

親切 料金は極め低廉で
妊産婦の御家庭にお留守居番
御病人の付添 年寄やお子さんの付添
炊事や雑用

派出多忙に付會員至急募集
平町紺屋町二(電話二二番)

上原家政婦會

會主 産婆 上原通子

門 專
産科 婦人科
花柳病科

◎入院隨意

井坂醫院

平町田町 電話五五九番